



平成7年度 日本生物工学会 年次大会 後記

日本生物工学会の平成7年度大会は、平成7年10月11日（水）より13日（金）まで、九州大学50周年記念講堂（第1会場）および同工学部防音講義室（第2～第7会場）で開催された。3日間にわたって一般講演437件、シンポジウム5課題30件、日韓セミナー12題、受賞講演5件、合わせて484件の講演が行われた。参加者数は会員、非会員を含めて約1,200名であった。本年度はわずか2カ月前に農芸化学会の年次大会が北海道で開催されたことを考えると予想を越える盛会であった。また、展示会は38社の協力を得て50周年記念講堂2階（ホワイエ）にて行われた。

第1日には、午前中に授賞式があり、児玉会長挨拶、授賞選考経過報告のあと、生物工学賞（永井史郎氏）、江田賞（水津哲義氏）、斎藤賞（四方哲也氏）、照井賞（朴 龍洙氏）、技術賞（松前裕明氏ら）、論文賞（河西明義氏ら、吉田直人氏ら、石井芳則氏ら、山内芳弘氏ら、中沢伸重氏ら）が授与された。ついで、永井史郎氏より「微生物培養プロセスの工学的研究」と題した生物工学賞受賞講演があった。初日午後より第3日までシンポジウム、一般講演いずれも例年通りプログラムに従って、盛況裏に滞りなく進行した。平成7年度大会の特徴を思いつくままに列記すると、1) 九州での年次大会の開催は初めてであり、しかも昨年に結成された九州支部が初めて責任を持って担当した大会で、予算面をはじめ様々な点で本部からご支援・ご教授をいただいた。2) 会場が福岡という地理的条件を考慮し、韓国との特別セッションを企画した。計12名の日韓の研究者が生分解性プラスチック素材の微生物合成について興味ある発表を行い、活発な討論が展開された。3) 地場企業の活動を紹介する意味で、展示会場に地場産業紹介コーナーを設けた。展示会は目標を上回る出展数となり、経済状況の悪い中、幹事会社の御尽力と展示会に参加して下さった企業の方々に厚く御礼申し上げます。4) 第2日に福岡リーセントホテルで行われた懇親会は約400名もの参加者があり、

大盛況のうちに終了した。日本酒や焼酎などのコーナーを設け好評を得た。また、平成8年度大会実行委員長の山根恒夫中部支部長のご挨拶があった。5) 大会開催を記念してTシャツ（一枚¥1,200）と大会トピックスを作製・販売した。6) 本学会活動を地元市民に理解して頂くため、市民フォーラムを企画し、北九州バイオインダストリー研究会（会長；三田 隆氏（産業医大教授））と共に「暮らしとバイオテクノロジー」を大会直前の10月5日に北九州市の九州厚生年金会館で開催した。基調講演を石崎文彬九州支部長が行い、他に白幡 聰氏（産業医大）、園元謙二氏（九大）、加藤安彦氏（九工大）に講演を依頼した。また、日経バイオテク編集長の宮田 満氏より話題提供をしていただき、パネル討論会を行った。約120人の聴衆で満員になった会場では質疑・討論が熱心に行われ、この分野に対する市民の関心の高さを伺えた。7) 経費節約のため各会場の受付けを無人にしたが、OHPによる発表に特に支障はなかった。しかし、講演確認の手続き等で戸惑う参加者も若干名ではあるが存在した。今後この方式をとる場合、事前通知などの対策をとる必要性が考えられた。8) 大会中に行われる各種委員会の数が増加し、会場の確保に苦慮した。委員会数は今後も増えるものと思われ、来年度以降も考慮すべき問題点として残った。

支部が主体となって年次大会を運営するようになって2年目になるが、今回は九州地区の多くの大学、企業の方々のご協力に支えられ無事大会を終了出来た。



受賞のみなさん

また、九州支部創設2年目にしての一大イベントもあり、本部をはじめ各方面から多大なご協力と適切なアドバイスを頂きました。この場を借りて、厚くお礼申し上げます。来年度の名古屋大会の成功を祈念してこの稿を終えたいと存じます。

平成7年度 大会実行委員長 石崎 文彬

日本生物工学会 第3回囲碁大会報告

平成7年度も日本生物工学会大会（福岡）に合わせて、第3回会長杯囲碁大会を下記要領で開催いたしました。腕自慢約10名のご参加をいただき、4回戦を開いた鈴木智雄先生が初の栄冠を獲得されました。誠実さ・温厚さ・老猾さ・若い力等鈴木先生のいろいろな側面を感じさせる、まさに熱闘でした。他の方々も、今年こそはの決意に燃え、惜しくも1敗するや直ちに来るべき年の捲土重来を期すといった面もちで、親睦と手談を楽しんで頂きました。

尚、会場等園元先生他九州大学諸先生方のご尽力を賜り、大関株式会社から貴重な飲み物、サクラ精機株式会社から進行係、鶴千代田製作所から賞品・進行役のご援助を賜りました。まことに有り難うございました。

この催しもようやく3回を終了し、関係者一同文字どおり3日坊主にならぬよう、あい勤めますので、皆様におかれましても同好の士をお誘い合わせ願って一層盛り上げていただきますようお願い申しあげて御礼とご報告に換えさせていただきます。

記

開催日時：平成7年10月11日

（日本生物工学会年次大会初日）

受け付け 午後4時40分から5時10分

委員長挨拶、組み合わせ、諸注意説明

対局 午後5時20分から9時20分 4回戦

表彰式後終了 午後9時30分

開催場所：九州大学職員会館（松原）

対戦方法：ハンディ戦、変則スイス方式、4回戦（時計を使用、持ち時間25分）。

大会参加費：2000円

入賞：優勝 鈴木智雄

（宇都宮大学農学部生物生産工学科）

準優勝 富田 実

（徳島県立工業技術センター微生物工学科）

3位 黒木猛熊（日本生物工学会事務局）



囲碁大会会長杯授賞

参加賞 入賞者以外全員

委員長 岡崎 光雄

幹事 黒岩 岩記

平成7年度 第2回編集委員会議事録

- 日 時 平成7年10月11日（水）12時～13時20分
- 場 所 九州大学50周年記念講堂 会議室
福岡市東区箱崎6-10-1
- 出席者 児玉 徹・岡 徹夫・新名 勝彦
*飯島 信司・*植田 充美・卜部 格
大竹 久夫・*岸本 通雅・五味 勝也
清水 和幸・清水 昌・園元 謙二
高木 昌宏・長澤 透・中原 忠篤
*仁平 卓也・古川 憲治・*本多 裕之
山本 憲二・*依田 幸司
編集幹事 大政 健史・中嶋 幹男

*印 委任状

4. 議事の経過および結果

会長挨拶に続いて卜部英文編集責任者が座長となり以下の議事を司会した。

第1号議事 議事録の承認について

前回議事録承認：卜部理事は、去る5月30日開催された第1回編集委員会の会議内容の概略を報告し、承認された。

第2号議事 平成7年度編集中間報告について

卜部理事は、資料1に基づいて平成7年8月末日までの英文および和文の原稿受付状況および投稿数と掲載数について報告し、承認された。

第3号議事 投稿規約改正について

卜部理事は、資料2に基づいて規約改正案を説明

した。

提案説明に基づいて意見を伺ったところ、原案の通り承認された。

第4号議事 学会誌発行事務の効率化について

ト部理事は、資料3に基づいて会誌発行事務の効率化についてその概要を説明し、大政幹事が補足説明を行った。

提案説明に基づいて意見を伺ったところ、原案の通り承認された。

第5号議事 英文誌への会告掲載について

ト部理事は、和文誌が隔月刊行のため情報誌としての役目を完遂していないので、補完的に英文誌に会告（大会、シンポジウム、セミナー等の案内）を掲載することを提案した。

提案に対して協議した結果、エルゼビア社と協議の必要があるとし、継続協議とすることになった。

第6号議事 Editorial Board の変更時期について

ト部理事は、資料4に基づいて英文誌に掲載している Editorial Board のメンバーの変更告知は Volume が改まった月（7月）に掲載することを提案した。

提案に基づいて検討した結果、提案の通り掲載を承認した。

第7号議事 和文誌への新規掲載事項について

清水和文誌編集責任者は、和文誌に巻頭言、見聞録、研究所紹介の新規記事掲載について提案説明を行った。

提案に基づいて検討した結果、提案の通り掲載を承認した。

第8号議事 編集顧問の取扱いについて

ト部理事は、和文誌に掲載している編集顧問の取扱いについて諮った。

協議の結果、積極的に掲載しておく方がよいとの意見はなかった。しかし永年の顧問に感謝して、制度が廃止になったことを伝えるべきだとの意見もあり、その取扱いを理事会に委ねることにした。

第9号議事 トピックス委員の委嘱について

清水和文誌編集責任者は、平成8年度のトピックス委員10名および幹事1名を資料の通り委嘱することを提案した。

提案について協議した結果、異議なく原案の通り承認された。

第10号議事 その他

清水（和）委員から和文誌に「講座」の新規掲載の提案があったが、時間の都合で次回に協議することにした。

平成7年度 第4回理事会議事録

1. 日 時 平成7年10月12日（木）
12時30分～13時30分

2. 場 所 九州大学50周年記念会館 会議室
福岡市東区箱崎6-10-1

3. 出席者 児玉 徹・岡 徹夫・新名 悅彦
*天知 輝夫・飯島 信司・ト部 格
大竹 久夫・木村 光・塩谷 捨明
*清水 昌・隅野 靖弘・谷口 誠
蓼沼 誠・土佐 哲也・富田 房男
富塚 登・中原 忠篤・西山 徹
*古川 謙介・松村 正利
監 事 田中 澤夫・*布川弥太郎

*印 委任状

4. 議事の経過および結果

黒木事務局長は、理事の出席数（本人17名、委任状3名）を確認して、本理事会の議長が児玉会長であることを告げた。議長は、議事録署名人にト部、塩谷両氏を指名して議事に入った。

塩谷理事は、議事に入る前に第3回理事会の議事録の概要を報告し、承認された。

第1号議事 平成7年度中間報告について

1)庶務報告：塩谷庶務担当理事は、平成7年8月末日までの事業、会議開催状況、支部委員会および会員移動状況について資料の通り報告した。

2)編集関係：ト部編集担当理事は、平成7年8月末日までの英文誌および和文誌の原稿受付状況ならびに投稿数と掲載数について資料の通り報告した。

3)会計関係：隅野会計担当理事は、平成7年8月末日までの経常会計の収支について資料の通り報告した。

4)その他

ト部理事は、昨日開催された編集委員会の協議内容を次の通り報告した。

イ) 投稿規約の一部改正案が原案の通り承認されたこと。

ロ) フロッピーディスク投稿原稿の規格化促進、著者校正の短縮化など会誌発行の効率化案が原案の通り承認されたこと。

- ハ) 英文誌への会告掲載については、編集委員会およびエルゼビア社との協議を重ねること。
- ニ) Editorial Board のメンバーの変更告知は、Volume が改まった月（7月）に掲載すること。
- ホ) 和文誌への巻頭言、見聞録等の掲載が承認されたこと。
- ヘ) 編集顧問の取扱いは、理事会に委ねること。
- ト) トピックス委員10名および幹事1名の委嘱が決まったこと。

議長は、以上の報告について意見を伺ったところ、全員異議なく承認した。

第2号議事 授賞規定改正について

塩谷庶務担当理事は、資料2に基づいて授賞規定の改正案を説明した。

議長は、以上の提案説明に対して意見を求めたところ、全員異議なく承認した。

第3号議事 賛助会員および賛助広告依頼について

隅野会計担当理事は、阪神淡路大震災者への会費免除について、新たに賛助会員の加盟依頼および新規の広告掲載依頼による収入によって補填する（常任理事会決議）ことになったが、資料2の通り百数十社の関連会社に対し、交渉者として各担当理事を決めて、賛助会員および広告掲載の勧誘を行うことを提案した。

議長は、以上の提案説明に対して意見を求めたところ、全員異議なく承認した。

第4号議事 若手研究者の集い育成について

塩谷庶務担当理事は、資料3に基づいて若手研究者の活動状況を報告した後、同集いの育成と活動促進を図るため、研究部会負担金と同額の20万円を支給することを提案した。

議長は、以上の提案説明に対して意見を求めたところ、全員異議なく承認した。

第5号議事 海外の関連学会との相互協定について

塩谷庶務担当理事は、資料に基づいて海外の関連学会との相互協定の進捗状況について報告した。しかし関連学会との相互協定は、エルゼビアとの契約条項に触れる部分もあり、エルゼビア社を交えて関連学会との相互協定の明文化作業を進めていると報告した。

第6号議事 その他

- 1) 学会の電子化：塩谷理事は、資料に基づいて会員

への連絡、サービス、海外との情報交換としての電子メール、wwwサービスの実施を提案した。協議の結果、原案の通り承認された。

- 2) 木村企画担当理事は、平成8年度の総会、セミナー、シンポジウムおよび平成9年度大会の運営について、資料に基づいて提案説明を行った。

協議の結果、原案の通り承認されたが、平成9年度大会は、日本農芸化学会も同所で開催されるので、会場を広範（関東一円）に考えて頂くよう指示した。

- 3) ニューズレター発行について：児玉会長は他学会の実施例、経費、郵便認可などを検討して試算するよう指示した。
- 4) 編集顧問の取扱いについて：継続審議することになった。

平成7年度 第2回評議員会議事録

1. 日 時 平成7年10月13日（金）
12時30分～13時30分
2. 場 所 九州大学50周年記念会館 会議室
福岡市東区箱崎6-10-1
3. 出席者 雨村 明倫氏、他21名
4. 議事の経過および結果

塩谷庶務担当理事は、評議員の出席数（本人出席22名、委任状29名）を確認した後、議長選出について諮ったところ、藤尾雄策氏を全員一致で選出した。続いて議長および会長の挨拶があり議事録署名人に雨村明倫、何森 健の両氏を指名して議事に入った。

- 5) 第1号議事 平成7年度事業中間報告について
 - 1) 庶務報告：塩谷庶務担当理事は、平成7年8月末日までの事業、会議開催状況、支部委員会および会員移動状況について資料の通り報告した。
 - 2) 編集関係：卜部編集担当理事は、平成7年8月末日までの英文誌および和文誌の原稿受付状況ならびに投稿数と掲載数について資料の通り報告した。
 - 3) 会計関係：隅野会計担当理事は、平成7年8月末日までの経常収支について資料の通り報告した。
 - 4) 監査報告：田中監事は、平成7年度8月末日までの事業、会計状況は報告の通り概ね妥当であると報告した。
 - 5) その他
 - 庶務関係：塩谷理事は、12日開催された理事会の決議事項を次の通り報告した。

- イ) 若手研究者の集いの活動に対し研究部会と同額の20万円を交付すること。
- ロ) 海外関連学会との相互協定は、エルゼビア社との契約条項に触れる部分があり、エルゼビア社を交えて関連学会との相互協定の明文化作業を進めていること。
- ハ) 会員への連絡サービス、海外との情報交換としての電子メール、wwwサービスなど学会の電子化への提案が承認されたこと。
- ニ) 平成8年度の総会、セミナー、シンポジウムおよび平成9年度大会の運営案について承認されたこと。
- 編集関係：ト部理事は、11日・12日開催された編集委員会および理事会の決議事項を次の通り報告した。
- イ) 投稿規約の一部改正案が原案の通り承認されたこと。
- ロ) フロッピーディスク投稿原稿の規格化促進、著者校正の短縮化など会誌発行事務の効率化案が原案の通り承認されたこと。
- ハ) 和文誌への巻頭言、見聞録などの新規掲載案が承認されたこと。

- ニ) Editorial Board のメンバーの変更告知はVolumeが改まった月（7月）に掲載すること。
- ホ) トピックス委員の委嘱を原案の通り承認したこと。
- ヘ) 編集顧問の取扱いは、理事会に委ねること。
- 会計関係：隅野理事は、12日開催された理事会の決議事項を次の通り報告した。
- イ) 阪神淡路大震災者への会費免除について、新たに賛助会員の加盟依頼および新規の広告掲載依頼による収入によって補填すること、そのため理事各位は関連会社の百数十社に対し、賛助会員および広告掲載の勧誘を行うことになったこと。
- 以上の報告について、意見を伺ったところ全員異議なく承認した。
- 第2号議事 授賞規定改正について
塩谷理事は、資料に基づいて授賞規定の改正案を説明した。
- 以上の説明について、意見を伺ったところ全員異議なく承認した。